クラス番号	912	担当教員名	高山　京子
テーマ	当事者の立場（“立つ瀬”）を理解する		

ゼ ミ ナ ー ル 概 要

キーワード；ソーシャルワーク、精神保健福祉、障がい者福祉、当事者

【目的】

いわゆる「当事者」とは何をいうのでしょうか。辞書でその言葉を調べると、「その事に直接関係のある人」とあります（三省堂　大辞林）。では、「その事」とは一体何を示すのでしょうか。

社会福祉の実践現場では、この「当事者」という言葉をよく聞き、使います。ここでいう「当事者」とは、障がいや病い（病気）、という「困難さ」「生きづらさ」を抱えた、あるいは、そのことに直面している人たちのことを言っている場合が多いです。その立場の人たちはどのようなことを思い、何を考え、今を生きているのでしょうか。社会福祉士、精神保健福祉士を目指し、ソーシャルワーカーとしての活動を考えている皆さんには、ぜひとも「当事者」の立場が分かる人であってほしい、と思います。皆さんがそういう人「財」となり得ることを目指し学びます。

【授業計画、その内容と方法】

ゼミ運営の肝（キモ）；全員による全員のためのゼミ。つまり、協調性を最重視します。将来ソーシャルワーカーを目指すにあたり、必須要件と考えるからです。

《前期》

① 当事者やその家族が記述したり、直接述べたり（口述）した記録などに触れます。皆さんに著書や作品を探してもらうことも学びの一つと考えます。皆さんが苦労して探し当てた作品をゼミ全体で共有します。もちろん教員からヒントも差し上げます。

② 文献等で学んだことを基礎学とし、次には実際に当事者団体等を訪ねます。団体探し／交渉も皆さんに力を発揮してもらいます。当事者や家族へご意見を伺う時に、何を注意したらよいか、どんな質問をしたらよいのか、などについても事前に検討をします。検討にあたりロールプレイも活用し、より実感しやすい工夫を凝らします。その調査成果を合同ゼミの場で発表します。

《後期》

③ 福祉専門職以外の専門職の意見にも触れます。文献等で事前学習した上で「多職種連携」のシンポジウムに参加します。福祉専門職以外の実際の役割、機能についてお話を伺い、理解します。

④ いわゆる広い意味での「社会問題の現れている現場」でフィールドワークを体験します。フィールドは自分の関心のある分野を選択して実施します。この学びを報告会等でまとめ、共有します。

⑤ この他に「多様性の意義」について生物学的視点で学びます。ソーシャルワーカーとして存在や価値の多種多様さを理解することはとても重要です。その感覚を、ワークショップを通して疑似体験してみましょう。

【１年を通しての理念】

ひたすら当事者の“立つ瀬”に迫ろうとする姿勢とわきまえを大切に。目指すは「自分自身で、共に」で。

担当教員からのメッセージ

私は 20 数年、縁あって精神障がい当事者や家族の支援活動に携わってきました。精神科病院のソーシャルワーカーを皮切りに、精神科クリニックのソーシャルワーカー、私的実践を経て、社会福祉法人の立ち上げ、日中活動の事業所、相談支援事業所の事業運営に至るソーシャルワークの多くを経験させてもらって現在の私があります。今も地域で所属にとらわれない、グループワーク（当事者研究）を実践しています。その中で精神障がい者といわれる「当事者」とその家族が抱えている課題の大きさに対し、まずは彼らの立場を真摯に受け止めようとすることが、何よりも大切な支援であることを実感してきました。私が長年の実践の中で育んできた、“立つ瀬を守る”という造語の真意を、若く希望ある皆さんに感じて頂き、できれば共感してもらえるようなゼミナールを目指したい、と思っています。